●中学生職場体験事業（未来くるワーク体験）を実施しています。

平成24年度は、本太中学校、美園中学校、東浦和中学校、三室中学校、木崎中学校の５校の生徒が、12月上旬から２月の上旬にかけて当館で下記の内容で職場体験を行いました。

１日目　オリエンテーション（実習計画・諸注意）、講話（博物館の仕事と展示物）、展示パネルの作成、受付事務（電話対応・宛名書等）、館内外の清掃作業

２日目　開館準備（看板、幟等の設置、市旗等の掲揚、館内の確認）、資料の整理、展示パネルの作成、昔の道具の扱い、館内外の清掃作業

３日目　開館準備（看板、幟等の設置、市旗等の掲揚、館内の確認）、資料の取り扱い「掛け軸」、講話（働くことの意義）、キャプション作成・展示・説明、館内外の清掃作業。

日誌抄

4／15(日)　定例探鳥会
5／4(金)～5(土)　こどもの日工作教室（折り紙かぶと作り）
5／20(日)　定例探鳥会
6／9(土)　親子探鳥会
6／14(木)　三室小学校（２年生）地域学習
6／28(木)　三室小学校（３年生）地域学習
7／14(土)～9／9(日)　夏季企画展「夏休み子ども博物館」
7／15(日)　定例探鳥会
7／25(水)～8／7(火)　博物館学芸員実習
7／28(土)～31(火)　昔のあそび体験（おもちゃ作り、クイズ大会）
8／1(水)～9／2(日)　文化財さがし
8／4(土)～5(日)　見沼通船堀のしくみ実験
8／19(日)　定例探鳥会
8／25(土)～26(日)　作って遊ぼう（ぶんぶんゴマ、よく飛ぶ折り紙飛行機）
9／11(火)～10／14(日)　収蔵品展
9／16(日)　定例探鳥会
10／16(火)～12／9(日)　特別展「足立百不動尊」
10／21(日)　定例探鳥会
11／1(木)～11／11(日)　特別公開（小茂田青樹筆　茶の花図）
11／3(土)　学芸員による展示解説
11／17(土)　埼玉大学生学芸員実習
11／18(日)　学芸員による展示解説、定例探鳥会
12／8(土)　特別展関連講座「不動尊を巡る民俗」
12／16(日)　定例探鳥会
12／14(金)～5／6(月)
企画展「ちょっと昔のくらしの道具展」

さいたま市立浦和博物館報　**あかんさす**　No.104
編集・発行　さいたま市立浦和博物館
〒336-0911　さいたま市緑区三室2458番地
TEL・FAX　048—874—3960
発　行　日　平成25年２月21日
ホームページ
http://www.city.saitama.jp/hakubutsukan.html
E－mail　urawa-museum@city.saitama.lg.jp
この館報は2,000部作成し、一部当たりの印刷経費は25円です。

ISSN 1341-1330

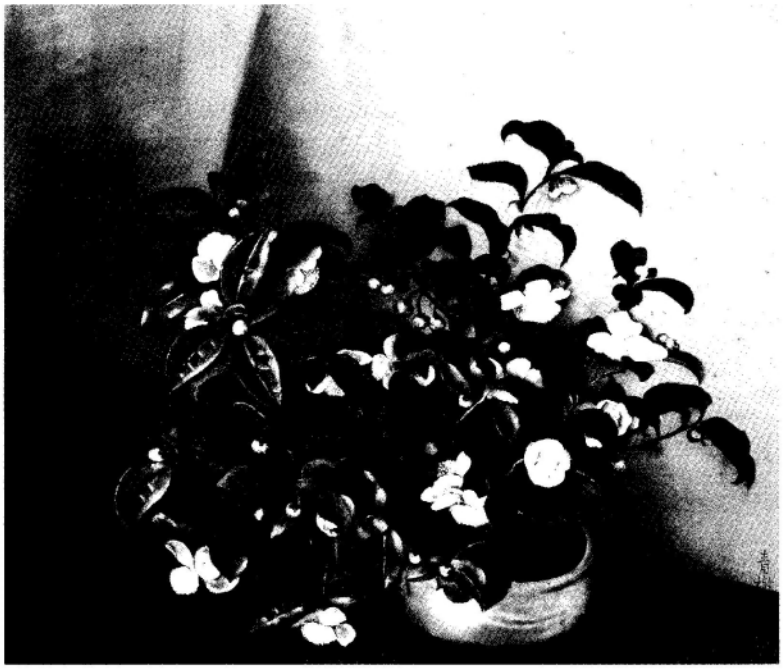
さいたま市立浦和博物館館報

あかんさす

VOL. 41-1
通号 第104号

ACANTHUS : BULLETIN OF SAITAMA MUNICIPAL URAWA MUSEUM

海を渡った文化財
～小茂田青樹筆（おもだせいじゅひつ）　茶の花図～



当館所蔵、さいたま市指定有形文化財（絵画）「小茂田青樹筆　茶の花図」は、イタリアのローマ国立近代美術館で開催される「近代日本画と工芸の流れ　1868～1945」展（主催：国際交流基金、京都国立近代美術館、ローマ国立近代美術館、会期：平成25年２月26日から５月５日まで）に出品のため、明治初期から戦前に至る日本絵画及び工芸の名品170点の一つとして海を渡ります。

写真からは見て取れない群青色の濃淡の表現を、海外の人はどのように感じるのでしょうか。興味は尽きませんが、市内の方の中にも、まだご覧になっていない方が大勢いらっしゃると思います。平成25年度も、茶の花の咲く秋に公開を予定しています。どうぞ御期待ください。

■目　次■

特別展「足立百不動尊」を終えて……2・3
日誌抄……4

百ところ　めくりめくりて　善前の　行なひ弘き　寺におさめつ

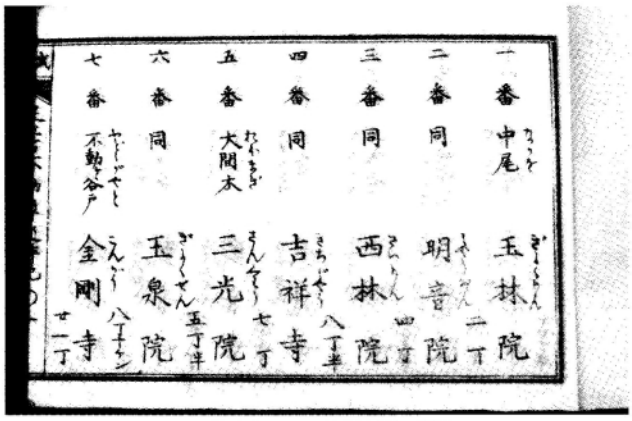
（『武州足立百不動尊巡礼歌』より「百番　行弘寺」）

平成24年度秋の特別展として、「足立百不動尊」を10月16日から12月９日まで開催しました。「足立百不動尊」を御存知の方、御存知なかった方と様々でしたが、期間約5,000人の方に来館いただきました。展示した資料の一部をここで紹介いたします。

「足立百不動尊」とは、市内及び周辺地域の100躯の不動尊のことで、現在の緑区中尾にあった「玉林院（廃寺）」を１番とし、100番の行弘寺（南区）まで、総経路約115kmの巡拝路を定めていました。酉年に御開帳していますが、すでに廃寺になっている寺院も多く、その存在は広く知られてはいません。

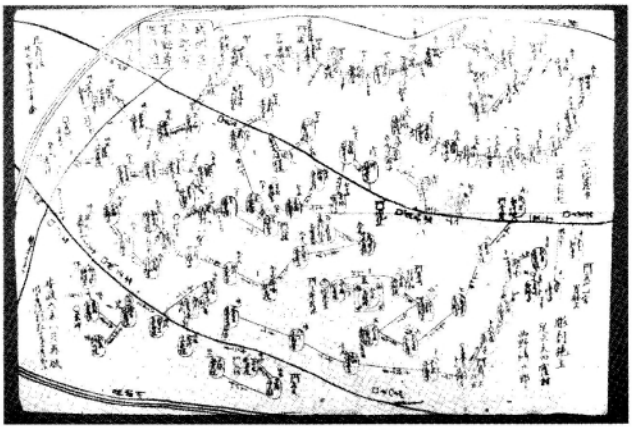
いつ、百不動尊が定められたかということも不明ですが、安政５年(1858)に再興されたことが、『武州足立百不動尊巡礼歌』（以下『巡礼歌』）に記されています。

『巡礼歌』は、安政５年12月に出版されたもので、100ケ寺のお寺の御詠歌を収めています。その序によると、「その初め最ふかきことにしてさたかにしる人なし」と記されています。そして、修験寺院の明音院の順説、行弘寺の順栄の二人が発起し、願主とともに百ところの順次、道のりを記し巡拝の助けとしたこと、また、巡拝の道すがら歌うために、新曽（現戸田市）の本橋源平衛ら３名が、百首の歌を詠んだことが記されています。それを裏付けるように、安政５年11月に『足立百不動尊巡拝記』（以下『巡拝記』）が出版されています。



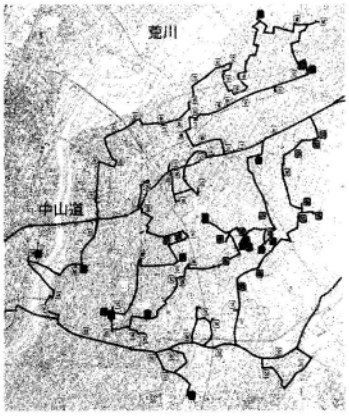
▲『足立百不動尊巡拝記』

『巡拝記』は、木版刷りされた８枚の和紙を綴じたもので、現在の市域で、さいたま市（緑区、南区、浦和区、桜区、大宮区、西区）及び川口市、蕨市、戸田市、東京都北区にまたがる100ケ寺を、１番から順番に、村名又は小名、寺院名を記し、次の札所への距離を記入し、最後に再興願主の名前を連ねています。



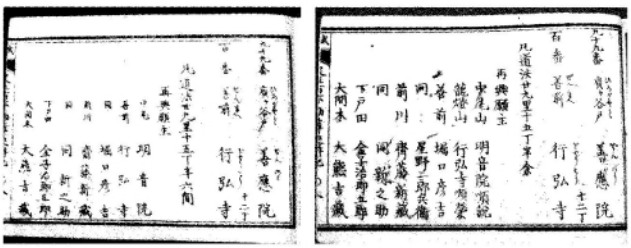
▲『武州足立百不動尊巡拝図』

次いで、『足立百不動尊巡拝図』（以下『巡拝図』）が、安政６年８月に印刷されました。「明王院行弘寺より差出候」との銘があり、『巡拝記』と同様、村名又は小名、寺院名、距離が記されています。巡拝路は、中央右下の１番玉林院から、氷川神社社頭の10番観音寺（廃寺）へ向かい、そこから大きく時計回りに34番善光寺（川口市）、59番林光寺（西区）を経由し、今度は反時計回りに内側の寺院を廻り、100番行弘寺へと向かいます。



▲現在の地図に示した推定巡拝図（10番観音寺除く）

これらの『巡礼歌』『巡拝記』『巡拝図』は、全て木版刷りのものですが、２種類以上存在したようです。『巡礼歌』と『巡拝図』は、それぞれ年号は同じですが、増し刷りの時に、不必要なものを削ってしまったと思われます。『巡拝記』は、７枚目までは同じ刷りですが、８枚目は版が

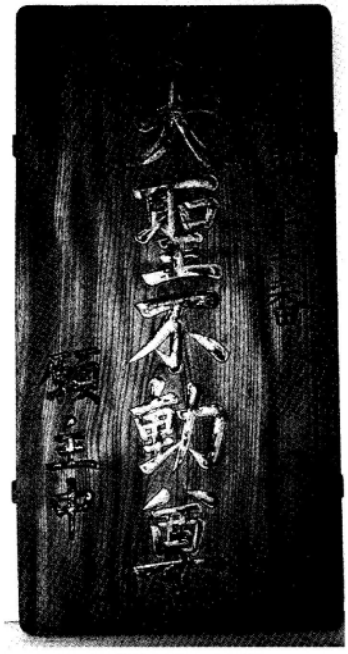


▲２種類の『足立百不動尊巡拝記』

異なります。ともに「安政戊午五年十一月再販」の銘がありますが、片方は、それまでと同じ筆跡で、距離を「廿九里十五丁半六間」と細かく書き、再興願主12名を記しています。もう一方は、理由は不明ですが願主を追加し、19名の再興願主の名を記しています。この19名の願主名は、『巡礼歌』等にも見られますし、距離も『巡拝図』と同じく「凡道法廿九里十五町半余」と記すことから、後から刷られ、普及したものでしょう。

蕨市歴史民俗資料館紀要第７号に掲載されている「安政６年８月再販『足立百不動尊再興記』（以下、『再興記』）は、約10年前に発見されたもので、再興の概要がわかる史料です。この中の正月25日の記事に、巡拝記の「出版料」、「刷立賃」の代金が記されています。『再興記』に再興願主と同じ19名の名前があることから、19名の再興願主名の入った『巡拝記』のこととみてもよいのではないでしょうか。

また、『再興記』には、「額百枚」「八丁石工手間」などの文字も見えます。「額百枚」とは、百不動尊の寺院に掲げられた『大聖不動尊』の扁額のことです。高島英一氏は、平成５年に著した『歩いて確かめた私の足立百不動尊巡拝記』の中で「…玉林院で、百不動尊の扁額を一括作成して、各寺院へ配布したのではあるまいか。…(略)…この扁額は、百不動尊の証明書とみることができる。」と記述していますが、まさにその通りだったわけです。現存する扁額からは、ほぼ同じ大きさのケヤキ材の表面に「足立○番／大聖不動尊／願主中」と楷書体の文字が刻まれていることがわかります。裏面は何も書かれていませんが、蕨市定正寺の扁額には、願主15名が朱書きされています。なお、１番玉林院は行書体で文字を刻み、57番神明寺（廃寺）は、普通の扁額を横に２枚並べた大きさのケヤキ材に「足立五十七番／不動明王／本尊二躰／聖観世音」と刻んでいます。



▲第86番の扁額
（蕨市／定生寺）

「八丁石工手間」とは、安政６年４月に建てられた『足立百不動尊供養塔』（以下、『供養塔』）の手間賃と考えられます。供養塔は、正面に「天下泰平」「足立百不動尊供養塔」「国家豊穣」と刻み、両側面に50ケ寺ずつ、計100ケ寺の名前を、裏面には「安政六未天四月大吉辰」「武州足立郡／太田窪村／龍燈王山行弘験寺／佛魔謹拝書／大閑院順栄代」と刻んでいます。また、台石正面に、再興願主19名の名を刻んでいます。石工銘はみあたりませんが、『再興記』に「八丁石工」と記されていること、また、当館蔵の『文久元年（1861）銘足立百不動第一番標石』に順説、順栄を除いた17名の願主銘があり、「八丁石工」が刻まれていることから、大間木新田（現緑区大間木）の八丁石工が彫ったものと推測できます。再興時に100番の行弘寺に供養塔を立て、再興後初の酉年に１番の標柱を立てたことになります。

▲安永６年銘足立百不動尊供養塔
（さいたま市指定有形文化財）

まだ、新しい発見があるかもしれない「足立百不動尊」は、平成29年の酉年に、御開帳となります。御開帳するのは半数以下となってしまいましたが、４月の上旬、近くのお不動様をめぐってみてはいかがでしょう。

最後になりましたが、関係寺院、個人所有者等、多くの方々の御協力により、無事終了することができ、感謝する次第です。